

平成 28 年度
事業報告書

(平成 28 年 4 月 1 日から平成 29 年 3 月 31 日まで)

学校法人 高知学園

—目 次—

	頁
I 法人の概要	
[1] 学生生徒等数、法人及び設置学校の所在地	1
[2] 役員・評議員の概要	2
[3] 教職員数	2
II 設置学校の事業報告	
[1] 高知学園短期大学	3
[2] 高知中学高等学校	13
[3] 高知小学校	19
[4] 高知学園短期大学附属高知幼稚園	25
[5] 高知リハビリテーション学院	28

I 法人の概要

本学園は、明治 32 年、現在の高知市桜井町に開設された「江陽学舎」が前身で、平成 28 年度には創立 117 周年を迎えた。創立者は、独学で漢学や英語を習得された信清権馬先生（南国市出身）である。

学園の沿革をたどると、大正 8 年に城東商業学校が開設され、川島源司先生（昭和 37 年に初代学園長に就任）が昭和 26 年に城東高等学校、城東中学校の学校長に就任された。昭和 27 年には幼稚園を設置し、昭和 31 年には校名を高知高等学校、高知中学校に改称、昭和 32 年には現在地に移転し、同年に小学校を設置して、総合学園としての基礎が確立された。

昭和 42 年に短期大学を、昭和 43 年には私学では全国で最初のリハビリテーション学院を設置、現在では、幼稚園から小学、中学、高校、短大、リハビリテーション学院までの 6 部門で運営し、あわせて 2,798 人の児童、生徒、学生たちが学んでいる。

近年、少子化が進む中で経営の安定を図り、時代のニーズを踏まえた教育活動を充実強化するためにも、学生・生徒の確保は重要であり、全学校が共同で実施する募集イベント(GAKUEN Festa)の開催をはじめ各学校が創意工夫を凝らし、募集活動に努めた。

[1] 学生生徒等数、法人及び設置学校の所在地

法人・学校名	学 科 等	学生生徒等数 平成 28 年 5 月 1 日現在	住 所
学校法人高知学園	法人本部		高知市北端町 100
高知学園短期大学	生活科学学科	125	高知市旭天神町 292-26
	幼児保育学科	167	
	医療衛生学科	236	
	医療検査専攻	(139)	
	歯科衛生専攻	(97)	
看護学科	221		
	応用生命科学専攻	11	
	地域看護学専攻	22	
	小 計	782	
高知高等学校	全日制普通科	582	高知市北端町 100
高知中学校		428	高知市北端町 100
高知小学校		299	高知市北端町 100
高知学園短期大学 附属高知幼稚園		102	高知市北端町 100
高知学園短期大学 附属認可外保育所		16	高知市北端町 100
高知リハビリテーシ ョン学院	理学療法学科	285	土佐市高岡町乙 1139-3
	作業療法学科	166	
	言語療法学科	138	
	小 計	589	
	合 計	2,798	

[2] 役員・評議員の概要

1) 役員・評議員数（平成28年5月1日現在）

理事	10名
監事	2名
評議員	21名

2) 理事会・評議員会の開催状況

・理事会

第1回	平成28年	5月	30日
第2回	平成28年	8月	29日
第3回	平成29年	1月	27日
第4回	平成29年	3月	28日

・評議員会

第1回	平成28年	5月	30日
第2回	平成28年	8月	29日
第3回	平成29年	1月	27日
第4回	平成29年	3月	28日

[3] 教職員数

平成28年5月1日現在

学校名	教 員		職 員		合 計
	専 任	兼 任	専 任	兼 任	
学 園 本 部	0	0	8	1	9
高知学園短期大学	56	120	13	11	200
高知高等学校	40	10	3	11	64
高知中学校	31	8	1	1	41
高知小学校	18	9	1	5	33
高知学園短期大学 附属高知幼稚園	5	7	0	5	17
高知学園短期大学 附属認可外保育所	0	2	0	0	2
高知リハビリ テーション学院	30	82	9	10	131
合 計	180	238	35	44	497

II 設置学校の事業報告

[1] 高知学園短期大学

1 事業の概要

「世界の鐘」の呼びかける平和と友愛の精神を柱とし、自由と規律を尊び、真理を深め、創造性と情操を培い、広い教養と健全な社会性を身につけた短期大学士の学位を有する専門的職業人を育成するという本学の基本方針のもと、本年度は、11 項目の重点目標を定め、その達成のため取り組んだ。

- (1) 入学者の確保に向けた施策の実施
- (2) キャリア形成教育の充実
- (3) 文部科学省等の外部資金の獲得
- (4) 四国地区大学教職員能力開発ネットワーク等の活用により FD（教員能力開発）SD（事務職員能力開発）の活性化を図り教職員の資質指導力の向上
- (5) 短期大学の中長期的な将来構想についての調査検討
- (6) グローバル化への対応として、北京大学をはじめとする他大学との交流連携の拡充
- (7) 国家試験対策の充実
- (8) 学習効果を高めるための施設・設備の充実
- (9) 震災対策等の充実
- (10) 地域貢献活動の活性化
- (11) 高等教育機関（大学・短大・高専）との連携強化

2 事業の実績

- (1) 入学者の確保に向けた取組みでは、学生支援課と入学試験募集委員会との有機的な連携のもと教職員の協働体制により事業を展開した。年間行事計画により、積極的な広報活動を行っている。年間 4 回開催のオープンキャンパスでは年度毎にテーマを掲げ、それに沿って各学科・専攻で企画検討し内容の充実を図る工夫、時期を見極めた効果的な学校訪問、教職員が担当する高校での講演活動や説明会、高校の行事への積極的な参加等を通じて本学の理解啓発に努めた。

入学者は、本科 300 名、専攻科は、応用生命科学専攻 11 名、専攻科地域看護学専攻 18 名の入学者となり、昨年を 15 名上回り 329 名となった。生活科学学科の入学者が昨年より少し増加したものの、定員割れの状況であり、次年度に向けてさらに対策が必要である。

- (2) 本学学生のキャリア形成は、必要不可欠であることから、平成 28 年度から全学科で実施することとなった。本学で作製したキャリアノートの活用、キャリア形成セミナーの開催や就活講座、学生のマナー指導等に積極的に取り組み充実を図っている。また、各学科が中心となって、卒業生を講師に招いての「ようこそ先輩」を開催・拡充を図り学生の将来の生き方や職に対する意識を高めるなど各学科の特色を生かしたキャリア形成に効果的であった。
- (3) 独立行政法人日本学術振興会 ひらめき☆ときめきサイエンス（研究成果の社会還元・普及事業）「お家にナースがやって来る！～これからの時代のナースの魅力って？～」、独立行政法人国立青少年教育振興機構 子どもゆめ基金助成金「臨床検査を覗いてみよう」に採択され、県内の中学生・高校生を対象に開催した。この事業は、学生のキャリア形成に資するものであり、キ

キャリア教育の一環として大いに活用でき、その成果も大きい。

- (4) 「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」の活用による教職員の資質・指導力の向上に関しては、学内の研究授業の実施（年間 11 回）や講演会（FD・SD 共同）の実施、愛媛大学等の主催する研究会・フォーラムへの参加を通じて所期の目的達成の努力を継続した。
- (5) 国の教育再生会議、中央教育審議会答申に対する文科省や日本短期大学協会、東京都内の私立大学への訪問等情報収集に努め、調査研究を実施している。
- (6) 国家試験対策では、本来の授業の充実と補習活動の充実を図り各学科（医療衛生学科医療検査専攻及び歯科衛生専攻、看護学科、専攻科地域看護学専攻）とも 100%を目指し取り組んだ。28 年度の合格率は、専攻科地域看護学専攻の保健師の国家試験は 5 年連続 100%を達成したが、他の学科は各試験ともに成績が向上したが全国平均を少し上回る状況であり、全学科 100%の目標は達成できず、さらにきめ細かな指導対策を実施する必要がある。
- (7) 学習効果向上のための施設・設備の充実では老朽化した施設設備の改修に積極的に取り組み生活科学学科の実習室の整備や、医療検査専攻の実験実習室の機器の整備、教室の照明機器の照度不足に対応するための照明設備の充実等教育環境の改善も前進した。更に 3 号館のトイレの全面洋式化等の整備をした。
- (8) 震災対策等は、震災対策委員会を中心に学生・教職員の防災意識の強化を図るための防災講演会、防災訓練を実施している。また学内の防災設備の点検や、防災機器備品等の整備も計画的に行っている。学生・教職員が必携としている防災マニュアルについても毎年更新し充実を図っている。
- (9) 高知県の三大学、学園短大、高知高専の高等教育機関と産業界で構成する産学官民連携センターの活動に積極的に参画するとともに地域貢献に関する事業の取り組みを進めてきた。これまで幼稚園・小学校・中学校・高等学校で実施してきた健康教育も継続拡充している。また新たに旭地域の高齢者を対象として、健康に対する意識の醸成や地域の方々の本学に対する理解を得ることを目的として各学科・専攻の特色を生かした「いきいき健康フェア」を開催し旭地域だけでなく、広域からの参加を得て好評を博した。今後更なる地域貢献が期待されている。
- (10) 県内高等教育機関の学長・校長で「高知学長会議」を組織し高等教育機関としての教育や地域に貢献する人材づくり、各校の所有する施設設備の共同利用、災害時の連携についての意見交換会を行っている。今後も更に連携し充実した教育環境の確保に努める。

3 募集活動

(1) 入学者選考

昨年度と同様に 9 月の特別推薦選考から 3 月の試験選考 B までの 6 種類の選考と社会人選考 3 回、留学生選考 1 回、専攻科 2 回の選考を予定どおり実施できた。

(2) オープンキャンパス

28 年度は 6 月から 9 月にかけて 4 回実施した。オープンキャンパスが受験者増に直接繋がることから、積極的に広報活動を展開するとともに保護者を対象にした保護者のための講座を設ける等、内容の充実に更なる努力を行い参加者の増加に努めた。その結果、参加生徒 919 名、参加保護者 262 名、全体では 1,181 名の参加を得た。

(3) 高校訪問等

本学の学生募集入試委員会の教員と本学の学生支援課担当職員の協働体制により効果的な高

校訪問、高校主催の説明会、高校の学校行事や講演等積極的に参加し、高校と本学の信頼関係を構築しながら募集活動を展開した。また本学主催の高校教員を対象とした入試説明会を本学で実施し、多くの教員の参加を得た。更に昨年度からは、県外実施する進学説明会等へも参加している。

(4) 高校の進路指導に関する授業等

各高校の主催する進路指導講座やキャリア形成講演会に参加し、直接高校生に授業を行う模擬授業の機会の増加やPTA活動の一環として保護者を対象に行われる説明会にも講師として招聘される頻度も増加し、生徒・保護者両面の対策を実施した。

(5) 高知高校との連携

フェローシップによる対策を実施するために高校との連携を密にし、高知高校の2年生は授業見学とオープンキャンパスへの参加、3年生は授業参加及びオープンキャンパスの参加等を行い、本学に対する理解を深めるとともに進学意欲を高めることに努めた。

(6) 広報計画実績

本県に対する卒業生の貢献度や就職率の高さを強調し「社会にいちばん近い大学」としてのイメージづくりに努めるとともに、高校生の目線でのアピールを目的として「スイッチオンガクタンスタイル」のキャッチコピーを加えて本学の特色を強調してきた。新聞、テレビ、ラジオ等の広報活動は予算内でより効果的に展開できた。

(7) 募集実績

平成 28 年度募集実績

学科・専攻	出願者	合格者	入学者
生活科学学科	68	66	62
幼児保育学科	92	91	88
医療衛生学科 医療検査専攻	57	50	42
医療衛生学科 歯科衛生専攻	38	38	35
看護学科	119	92	73
専攻科応用生命科学専攻	15	12	11
専攻科地域看護学専攻	29	18	18
合 計	408	367	329

4 進路指導実績

(1) 就職指導

各学科の就職委員と学生支援課、キャリアセンターの緊密な連携による学生指導やキャリア形成セミナー等の講演活動による意識の向上、就職資料の充実、IT 関連の整備等を通じて、学生達の職業意識の高揚を図り、学生が積極的に就職活動に取り組む姿勢が向上した。

また、求人開拓も行うなど就職希望者全員の就職に向けて努力を重ねた。その結果、8 年連続しての 100%の就職率となった。

(2) 進学指導

本学の専攻科への進学者 29 名、他大学への進学者は 6 名。

(3) 平成 28 年度卒業生の進路状況

学科・卒業者数	職種	業種	就職者数	備考			
生活科学学科	栄養士	病院等	14	進学 : 1 その他 : 1 家庭 : 0			
		学校給食等	1				
		集団給食等	36				
	事務職員等	一般企業等	9				
		医療事務	7				
	上記以外		5				
卒業者数	74	就職希望者数	72	就職決定者数	72	就職率	100%
幼児保育学科	保育士	保育園等	65	進学	: 1		
	教員等	幼稚園	14	その他	: 1		
	事務職員等	一般企業等	3	家庭	: 0		
卒業者数	84	就職希望者数	82	就職決定者数	82	就職率	100%
医療衛生学科 医療検査専攻	臨床検査技師	病院等	7	進学	: 13		
		検査センター	9	その他	: 6		
				家庭	: 1		
卒業者数	36	就職希望者数	16	就職決定者数	16	就職率	100%
医療衛生学科 歯科衛生専攻	歯科衛生士	歯科医院	19	進学	: 0		
				その他	: 0		
		上記以外		3	家庭	: 1	
卒業者数	23	就職希望者数	22	就職決定者数	22	就職率	100%
看護学科	看護師	病院	50	進学	: 18		
	教員	学校等	2	その他	: 5		
	事務職員等	医療事務	1	家庭	: 1		
卒業者数	77	就職希望者数	53	就職決定者数	53	就職率	100%
合計 卒業者数	294	就職希望者数	245	就職決定者数	245	就職率	100%
専攻科 応用生命科学専攻	臨床検査技師	病院等	7	進学	: 2		
		検査センター	2	家庭	: 0		
修了者数	11	就職希望者数	9	就職決定者数	9	就職率	100%
専攻科 地域看護学専攻	看護師	病院	19	進学	: 0		
		施設等	1	その他	: 0		
	保健師		2	家庭	: 0		
修了者数	22	就職希望者	22	就職決定者	22	就職率	100%
総計				進学	: 35		
				その他	: 13		
				家庭	: 3		
卒業(修了) 者合計数	327	就職希望者数	276	就職決定者数	276	就職率	100%

*備考のその他とは、専門学校・各種学校・職業訓練入学。科目等履修生・卒後研修生。

5 人事計画実績

(1) 平成 28 年度の専任教員は、平成 27 年度と同様の 57 名となった。

兼任教員は、137 名となった。

(2) 専任職員は、18 名となった。

6 教育研究実績

(1) 生活科学学科

1) 教育実績

① 食・栄養に関わる理論と技術を多様な講義や実習、演習を通じて、きめ細かに指導し習

得させるとともに、食・栄養に関わる医学的知識を備えた栄養士を育成するために、各教員は自己研鑽に努め、授業・実習・実験の工夫と改善を行った。

調理学実習では、個々の学生の調理技術向上を図るとともに、別途補講により取得に努めた。学外実習反省会では、各受け入れ施設からの評価が良かったものの、一部の学生にマナーや積極性に欠けるなどの指摘があったことから、卒業後の社会への対応力を備える目的で、「飛翔式」を執り行い、「栄養士・管理栄養士倫理綱領」の朗読、旭光徽章の授与など社会に飛び立つための支援を行った。

- ② 学生の動向については、週に1回教員によるミーティングを実施し、学生の出欠状況、授業態度等について情報共有することで日常生活全般に気を配り、全教員が指導、支援に当たった。
- ③ 栄養士実力認定試験（主催：一般社団法人全国栄養士養成施設協会）においては、本年度から認定試験前に模擬試験を実施したことで、「認定A（栄養士として必要な知識・技能に優れていると認められた者）」の割合は、平成27年度の15%から26%と増加、一方C判定においては、平成27年度の21%から15%に低下しており、一定の評価が得られた。更に本年度はC判定の学生には、知識・技能が不十分で、更に研鑽を必要とするため、課題を与え習得するよう個別指導を実施した。
- ④ 在学生および卒業生を対象に管理栄養士国家試験準備講座の受講を促し、臨床、学校栄養教諭経験者の教員による専門性を高めた講義を実施し、管理栄養士取得に努めた。
- ⑤ 多様な進路選択に対応するため、将来の生き方等を含めた将来設計をたてることができるようキャリア教育形成演習を促し、多様な進路選択に対応できる学生の育成に努めた。

2) 研究実績

各教員が積極的な学科発表や著書、論文、講演、セミナー講師等の活動を実践し、平成28年度の研究業績は、著書7編、論文発表（原著）1編、学会発表9編、その他講演48編と質の向上に努め、社会的貢献活動を行った。

(2) 幼児保育学科

1) 教育実績

- ① 本学科の定めた教育課程編成・実施の方針に基づき、更なる教育効果の向上を目指して、教養教育科目の厳選を行い教育課程の充実を図った。
- ② 本学科の学位授与の方針に基づき、卒業生全員が幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得することを目標に、努力した結果、平成28年度卒業生84名全員が取得できた。
- ③ 学生の学習活動や学生生活全般の向上を図るため、学生の将来展望と意欲付け及び教員の指導力の向上と協働体制の確立に努め、一定向上したが今後更に向上への努力が必要である。

2) 研究実績

平成28度は著作1件、論文発表2件、学会発表3件、作品発表2件、その他2件を行い、それぞれの分野の専門性を高める実践をした。

(3) 医療衛生学科

(3-1) 医療検査専攻

1) 教育実績

- ① 学内教育において実践力をもった臨床検査技師を育成するために各教員が教材の開発

と教育の工夫に努めた。また、臨床施設の協力のもと病院見学実習（1年次）、夏期体験実習（2年次）、臨地実習（3年次必修）を実施したほか、高知県臨床検査技師会と連携した学生支援活動（2年次）を2回開催したほか各種研修会への参加を推奨した。

- ② 臨床検査技師国家試験は、各教科の国家試験対策に加えてチーム指導と個別指導を行った。その結果36名が受験し合格者は31名（合格率86.1%）であった。また卒業研修生4人全員が合格した。
- ③ 在学中に取得できる各種資格についても受験を勧め、模擬試験等を実施した。その結果、健康食品管理士認定試験（3年次）は合格者18名（85.7%）、中級バイオ技術者認定試験（2年次）は合格者24名（61.5%）であった。また遺伝子分析科学認定士に1名（2年次）が合格した。
- ④ 臨床検査技師の高度化への対応として学生への進学支援をした結果、専攻科応用生命科学専攻に11名が進学した。また、大学編入者が1名（徳島大学）、細胞検査士養成校への進学者1名（加計学園 細胞病理学研究所）であった。
- ⑤ 学生のモチベーションを高めるために、医療検査専攻の全学生が参加するキャリア形成事業を開催した。宣誓式（4月）、臨地実習報告会（9月）、在学生オリエンテーション「先輩から学ぶ」（3月）を実施した。また応用生命科学専攻の修了研究発表会（前期・後期）にも全学生が参加した。さらに世界医学検査学会（神戸）に3年生7名が参加、中国四国医学検査学会（高知）に48名が学生スタッフとして参加するなど学外行事にも活動を広げた。
- ⑥ 学習成果を高めるために、教員がFD活動に積極的に参加し、テキスト作成、ループブック相互評価の導入、アクティブラーニングなど可能なものから授業に取り入れ改善に努めた。また日本臨床検査学教育学会に参加し、全国の優れた実践から学び導入した。
- ⑦ 健康食品問題、リレー・フォー・ライフ、骨髄移植推進事業などの活動に参加し、健康・医療分野で学生と共に社会貢献した。
- ⑧ 独立行政法人国立青少年教育振興機構「子どもゆめ基金助成活動」に3年間連続して採択され、高校生（参加36名）を対象に体験実習「臨床検査をのぞいてみよう！」の事業を実施した。さらに日本学術振興会科学研究費助成事業「ひらめき☆ときめきサイエンス」にも採択され、中学生（参加22名）を対象に体験実習「自分の細胞、病気の細胞、いろんな細胞をみてみよう」の事業を実施した。これらの事業を通して中高生に臨床検査技師の職業についての理解を広めた。

2) 研究実績

- ① 医療検査専攻教員の研究発表は延べ論文7編、学会発表12題であった。
- ② 研究活動の活性化を図るため医療検査専攻研究セミナーを3月に開催した。
- ③ 外部資金獲得については日本学術振興会科学研究費助成事業へ2名が応募したが、研究費獲得には至らなかった。1名は助成金事業による研究を継続中である。

(3-2) 歯科衛生専攻

1) 教育実績

- ① 医療人としての倫理観や専門的知識の充実については、1年次には授業を通して職域の異なった先輩歯科衛生士の話を聴講し2年次では継承式の目的を理解して実習に臨み、3年次には臨床・臨地実習を通して幅広い知識を吸収することに繋がった。

- ② 1年生の段階から主体的な学びとなるよう1年生から3年生の縦割りのグループを作り、「健康教育」の授業である歯みがき指導実習に参加させた。また、この授業を通して、幼児・児童・生徒等への年齢層にあった対応等、学習効果がみられた。指導施設数および対象人数は幼稚園・保育園（17園 442名）小学校（30校 1,965名）中学校（8校 664名）高校（2校 97名）特別支援学校（1校 18名）であった。また、歯と口の健康週間行事では、高知市・高知市歯科医師会主催の「歯っぴいスマイルフェア 2016」に3年生は「手形コーナー」2年生は「ステージイベント」として各班で作成した媒体を用いて歯みがき習慣の啓発事業を展開した。
- ③ キャリア形成教育の一環として実施した「就職フェア」では、49 歯科医院 100名の参加のもと実施され、「求める歯科衛生士像」「歯科医院の診療方針」など面談を行い学生の意識の高揚となった。また、トップセミナーでは、職業観を育むことができた。
- ④ 歯科臨床実習においては、事前に高知県歯科医師会と意見交換会を開催し、実習の基本方針等の連携を強化した。
- ⑤ 全学科の取り組みである「健康教育演習」では、本学附属幼稚園において歯みがき指導を通して他科と連携し、口腔衛生の必要性を共有した。また、実践を行うことにより各年齢にあったコミュニケーションスキルをアップすることに繋がった。
- ⑥ 公開授業に参加し、教育力を上げるために事後検討会で意見交換を積極的に行った。
- ⑦ 歯科衛生士国家試験は、23名受験し合格者は20名（合格率 87.0%）であった。（全国合格率 93.3%）

2) 研究実績

- ① 研究実績は、論文4編、学会発表4編、その他講演等31編であった。
歯科衛生専攻の教員の専門とする内容を分担し講演を行った。
- ② 専門分野の方向性を専攻内で話し合い、積極的に研究活動を行うこととした。
- ③ 外部資金取得に向けては、「科学研究費助成事業セミナー」を受講し、次年度に向けての意欲の向上に努めた。

(4) 看護学科

1) 教育実績

- ① 学生の主体性を高めるための教育技術向上プロジェクトは、昨年に引き続き愛媛大学の仲道雅輝氏を招聘し、看護学科・専攻科地域看護学専攻教員9名の教員の参加のもと、計4回ワークショップを行った。授業評価の方法と活用では、具体的な評価方法から授業設計の仕方までを学び、個々の教員がそれぞれ授業の中で到達目標の明確化やそれに対応した評価方法の見直しを行った。また授業計画の作成では、シラバス作成の点検ワークシートにより自己分析を行い、オムニバス等複数で担当する教員間で互いの授業に対するねらいや課題を共有することにより、協力して授業に関する課題に取り組む確認ができるなど、教員の授業改善への意欲や取り組みの変化がでてきている。そして、授業教材の開発では教材研究ワークシートを用いて、教える内容・教材・教授方法を明確化し、現状について自己評価を行い対策を立てた。

参加した教員は、それぞれが自分の授業の見直しを行い、少しずつではあるが改善を図り、教員自身が自信をもって授業に取り組むことができるように変化してきている。また、それにより学生も前年度の授業より、教科書を読み込もうとする学生や質問する者が増え

るなど、少しずつ手ごたえを感じている。

- ② 実習施設連絡調整会議は、平成 28 年 11 月 30 日に本学にて実習施設 10 か所 16 名、看護学科教員 12 名の参加のもと実施した。会議の中では、本学からは受け持ち患者の確保の困難さや在院日数の短縮化の実習への影響などを、また、実習施設からは、実習において学校側と臨床側との指導者の考え方の相違がある場合があることや、実習指導者を育成する人材が施設内で不足している現状があることなど、互いに課題を抱えている状況を共通理解し、臨床指導者と教員との連携を今後も深めていく必要があるということを確認した。

実習指導者連絡会は、高知医療センター（実習説明会：平成 28 年 4 月 12 日、臨地実習日程調整会：11 月 1 日、実習連絡会平成 29 年 2 月 7 日）、高知県立あき総合病院（実習連絡会：6 月 14 日）、JA 高知病院（実習打ち合わせ会：9 月 26 日）、高知赤十字病院（5 校会：11 月 14 日）、近森病院（実習打ち合わせ会：11 月 16 日）に出席した。実習上の課題や、実習指導者と教員との連携の具体策などの話し合いを行った。

また、各実習前には領域担当者や実際に実習を指導する教員（助手、臨床講師）が施設に出向き、実習内容の説明や意見交換、事前研修を実施している。さらに、実習終了後は各施設において実習反省会を実施し、実習における課題を抽出し、次年度に向けての検討している。

- ③ 臨床講師との意見交換会を年 2 回実施した。第 1 回は、平成 28 年 5 月 19 日に小会議室で臨床講師 3 名、看護学科教員 9 名参加し実施した。看護学科からは、今年度実習の変更点として、「実習の注意事項」の配布資料の一元化、実習内容の変更点などを領域担当教員より説明した。臨床講師からは、実習上での指導について困難な点について意見があり、今後検討していくこととなった。

第 2 回は 11 月 15 日に実施した。参加者は、臨床講師 6 名、看護学科教員 11 名であった。後期実習に向けて、記録用紙の説明を実施した。臨床講師からは、積極性が低い学生について苦慮しているとの意見を頂き、対応について意見交換を行った。

- ④ 学生の意識が大きく変化する基礎看護実習の前に、看護専門職として取り組む決意を表明する戴帽式を 6 月に実施した。また開催以来初めて 4 職種（看護師、保健師、助産師、養護教諭）が揃った「ようこそ先輩」を 3 月に実施した。学生の感想では学びへの決意や看護師以外の職種について広く知ることができ興味を持つことができたなどの意見が出ており、効果的な開催となった。また、「生涯学習」を 11 月末に計画したが、参加者がなく広報活動について次年度の課題となった。入学予定者に対しては、入学後の 3 年間で何をしなければならないのか、そのために入学までにどのような準備が必要なのか等を示し、看護学生として立つための準備ができるようオリエンテーションを行った。
- ⑤ 「リレー・フォー・ライフ 2016（17 名参加）」「第 6 回キッズ☆バリアフリーフェスティバル（障害児向け福祉機器展）（6 名参加）」「高知龍馬マラソン 2017（11 名参加）」「第 31 回日本がん看護学会学術集会（11 名参加）」のボランティア活動に参加した。学生は、それぞれの活動を通して、看護師を目指していく中での考え方や今後の行動が変わる体験をしたり、学外の人々とのかかわりの中からコミュニケーションの重要性や報告連絡相談の具体を学ぶことができていた。
- ⑥ 看護師国家試験は、国家試験対策委員会を中心に全学年を対象として取り組んだ。1・2

年には、学習の必要性を伝えながら、基礎学力向上のためのテストを実施した。3年には全学生チューター制にてそれぞれの教員が個別に弱点強化学習やメンタル面でのサポートを行った。独自で作成したテストを繰り返し行い、実力確認のための全国模試の実施した結果、必要に応じ個別面接や保護者面接を行った。結果として、77名受験し合格者73名（合格率94.8%）であった。（全国の合格率88.5%）

2) 研究実績

- ① 看護学科・専攻科地域看護学専攻教員の研究実績は、論文4編、学会発表3編、その他3編であった。
- ② 本年度は、学科内FD活動を通じた共同研究体制の基礎作りを行い、来年度に向けて具体的に共同研究体制を2グループ作った。外部資金の獲得には至っていないが、学内で実施された科学研究費獲得のためのセミナーに参加した。次年度以降、科研費の獲得を目指し、中長期的な取り組みの計画立案が必要である。

(5) 専攻科応用生命科学専攻

1) 教育実績

- ① 平成28年度入学者11名全員が専攻科を修了し、大学改革支援・学位授与機構から学士（保健衛生学）の学位を取得した。
- ② 「バイオ上級技術者認定試験」を7名が受験し、5名が合格した（合格率71.4%）。
- ③ 高知学園短期大学の学外活動である歯っぴいスマイルフェア、リレー・フォー・ライフ、イキイキ健康フェアに骨密度測定やボランティア要員として参加し、地域の方々との交流を通して、臨床検査技師としての実践力を養った。
- ④ 平成28年度日本臨床衛生検査技師会中四国支部検査学会で、4名の学生が修了研究の成果を口頭発表することができた。

2) 研究実績

（本科に含む。）

(6) 専攻科地域看護学専攻

1) 教育実績

- ① 講義だけでなくグループワークを取り入れ、問題提起をして学生が主体的に学べる方法を授業の中に組み込んだ。学生が自ら学び、発言する力を持てるよう、教員は指導方法の工夫や改善に努めた。また、オムニバス科目については、教員2名体制で授業に入り、学生の理解度を確認しながら対応を行い協働して授業を展開した。
- ② 地域のなかで人々の生活に触れ、リアリティを持って人々の生活の多様性を理解し、支援方法について考えられるための基盤づくりとして、一泊二日の日程で土佐町におけるフィールドワークを実施した。その結果、学生は個人の生活の多様性（年齢、性別、社会・経済的環境などによって生活のあり様が個々に違うこと）を理解し、「対象者の背景を捉える」という言葉の重さに気づくことができた。また、地域で暮らす人々と触れ合い、その思いを聞くことによって、住民主体の活動の実際を理解し、人々が健康的な生活を支援する「公衆衛生看護」のイメージ化につながった。
- ③ 大学改革支援・学位授与機構による学士取得に向けた研究指導の質を高めるために作成したループリックを見直し、さらに教員間で共通認識をもって評価しやすいよう項目を洗練化した。

- ④ 公衆衛生看護実践論の質的評価を行い、公衆衛生看護学実習前にはケースメソッドを取り入れ、事例を用いてグループでディスカッションを重ね、個人から地域全体へつなげる思考過程のイメージ化を図った。グループワークでは、地域において対象者を尊重するかわりについて、学生が倫理的な視点でかわりを振り返ることができるようにした。また、実習後は実習地域で得られた情報をもとに地域診断を行い、健康課題解決のための方策を検討し、ディスカッションした。
- ⑤ 保健師、養護教諭の就職試験対策を早期から行き、それぞれ1名ずつの合格につなげることができた。入学前の段階から看護学科との連携を行い、受験につなげられた。
- ⑥ 保健師国家試験は、年間計画のもと個別学習指導を行うなどの対策を実施した。その結果、受験者22名全員が合格した。5年連続で100%の合格を達成した。

2) 研究実績

(本科に含む。)

※平成28年度国家試験受験状況(参考)

学 科		試験名称	受験者数	合格者数	合格率	全国合格率
医療衛	医療検査専攻	臨床検査技師国家試験	36	31	86.1%	78.7%
生学科	歯科衛生専攻	歯科衛生士国家試験	23	20	87.0%	93.3%
看護学科		看護師国家試験	77	73	94.8%	88.5%
専攻科地域看護学専攻		保健師国家試験	22	22	100.0%	90.8%

7 図書館

平成28年度は234日開館し、延べの貸出人数は3,008名、貸出冊数は6,839冊であった。また、損耗が甚だしく修理不可能な資料や保存の価値を失った資料6,972点を除籍し、書架スペースを確保して、地下の資料を2階に上げる準備が整いつつある。

(1) 学習環境整備

- ① 資格取得を目指す学生を支援するため、平成28年度も10月から3月まで開館時間を延長し、12月から2月までは土・日曜日も開館した。
- ② 学生の図書館来館を促すため、7月以降は企画展示を毎月行なった。
- ③ 図書館報が年2回の発行であるので、その間の情報を知らせるため、平成28年12月より「図書館ミニ・ニュース」を発行した。平成28年度は3号発行し、図書館内で利用学生に配布した。
- ④ 蔵書点検を学生の学業等に配慮し、3月期に実施した。

(2) 高知学園短期大学紀要第47号の発行

平成29年2月に発行した。

(3) 図書館報「らぶつく」の発行

7月と12月に第19号、第20号を発行し、新着図書のご案内や図書館活動の紹介などを発信した。

(4) 学生図書館委員の活動

学園祭において「おはなし会&ぬいぐるみのおとまり会」を実施した。

[2] 高知中学高等学校

1 事業の概要

基本方針として、個々の進路選択に応じた教育課程を編成し、教科・課外活動を通じて個性を伸ばし、信頼される人物の育成を目的とした。平成 28 年度は次の 7 項目の重点目標を定め、その達成にむけ取り組んだ。

- (1) 入学生の確保
- (2) 教員の資質・指導力の向上と授業改善
- (3) 基礎学力及び学習習慣の定着
- (4) 社会人としての生きる力を育成
- (5) 人権教育・特別支援教育に関する意識の向上
- (6) 部活動の実績の向上
- (7) 施設設備の改善と充実

2 事業の実績

(1) 入学生の確保

① 募集活動

生徒募集活動においては、学校案内・募集要項を高知市内及び周辺地区の小学校や県内中学校・学習塾に送付するとともに、中学校挨拶回り・県内塾回りや公立中学校の進路説明会に参加した。

中学に在籍する生徒のうち小学 6 年生の弟妹がいる家庭に対して、中学受験を呼び掛けた。

6 月に中学オープンスクールを開催し、10 月には地区別入試説明会を県内 5 会場、11 月には本校で開催した。

小中の内部進学率の向上対策として、小学校の体育授業への中高教員の派遣や数学科教員の出前授業など年間を通じた小中教育連携に取り組むとともに、6 月に高知小学校 4～6 年児童を対象にオープンスクールを開催、10 月には保護者対象の入試説明会を高知小で開催した。

中高間においては、中 3 学年団が生徒・保護者に対して積極的な内部進学の取り組みや情報提供を行うとともに、高校教員が中 3 生徒対象に高知高校を知る校内説明会を開催した。

また、ホームページを活用して、学校行事や日々の部活動の様子などを発信した。

◇学期ごとの募集活動の状況

1 学期	学校案内の部分改訂 県内公立中学校主催の学校説明会に参加（横浜、行川、西部、朝倉、愛宕、春野） チャレンジテニス開催（～3 学期） 本校卒業生公立小中学校教員との交流会開催（6/27）、本校退職教員による広報活動
------	---

1 学期	中学オープンスクール開催「小学生のためのオープンスクール」 (6/26) (体験授業 (英語・理科・家庭・美術) ・部活動体験) 夏休み 3 夜連続天体観測会 (7/22~24) チャレンジイングリッシュ開催 (7/29 他全 9 回) こうち私立中高合同進学フェア 2016 に参加 (7/31)
2 学期	県内公立中学校及び学習塾へ学校案内・募集要項等の送付 公立中学校及び学習塾を訪問 GAKUEN Festa 2016 での募集活動 (9/19) 地区別入試説明会 (土佐市 10/3、須崎市 10/5、南国市 10/6、安芸市 10/12、四万十市 10/14) 5 会場 高知小学校児童のためのオープンスクール (10/18) 入試説明会開催 (入試説明会、部活・ICT 授業体験) (10/30)
3 学期	学習塾訪問 高校推薦入試 (1/12) ・一般入試 (1/19、20) (本校、安芸、四万十の 3 会場) 中学入試 (2/18、19) 中学Ⅱ期入試個別説明会 (2/21) 中学Ⅱ期入試 (2/25)

② 入試結果

中学校では志願者が前年度より減少し、入学者は前年度対比 12 名減の 134 名となった。高知小からの内部進学率が 2 年続けて 20% 台で低迷しており、小中連携教育を軸とした 12 年間の教育連携を一層推進する必要がある。

高校では推薦・一般入試ともに志願者が前年度より増加した。特に推薦入試での有力部活動の積極的な生徒勧誘が奏功した。一方で、高知中からの内部進学者数は、進学率は昨年度と同水準の 85% を維持したものの、卒業生数が前年度より 24 名少なかったことが影響し、入学者は前年度対比 9 名減の 203 名となった。

◇入学者数の状況

中学校

(単位：人)

年度別	入学者数	入試別内訳	
		I 期入試	II 期入試
H29 年度	134 (143)	115 (121)	19 (22)
H28 年度	146 (158)	136 (143)	10 (15)
増減	△12 (△15)	△21 (△22)	9 (7)

※ () 内は志願者数

高校

(単位：人)

年度別	入学者数	入試別等内訳		
		推薦入試	一般入試	内進者
H29年度	203 (321)	49 (51)	40 (156)	114 (135)
H28年度	214 (315)	38 (40)	38 (137)	138 (161)
増減	△11 (6)	11 (11)	2 (19)	△24 (△26)

※ () 内は志願者数。ただし、中学から高校への内進者は卒業生数。

- (2) 教員の指導力向上の取り組みとして、教員一人ひとりが指導方法を工夫して必要な知識・技能を教授しながら、子どもたちの思考を深める方法など、学びに必要な指導の在り方を研究・実践することが必要である。

中学校においては学期ごとに授業公開週間を設定し、教員が相互に授業参観を行った。また、県外の講師を年間3回招き、授業研究会を開催した。

高校においては、特進クラスの授業担当者を軸に、大手予備校の教員研修プログラムへの派遣を行った。また、大学推薦入試受験者対策として実施した外部講師を招いての面接指導講習に進学指導の教員も参加し、大学受験指導のスキルアップに取り組んだ。

生徒による授業評価アンケートは、中学校は6・12・3月の学期ごと年3回、高校は6・11月の年2回実施し、教員の授業内容や指導方法の改善に努めた。

なお、授業研究・研修会への積極的な参加を、昨年度に引き続き推奨した。

◇主な研修参加

- ・中学校授業研究会の開催（県外講師を招聘）6・11・2月
 - ・センター試験対策日本史（河合塾）1名
 - ・教育相談講座（高知県心の教育センター）養護教諭2名
 - ・英語教育推進研修（高知県教育センター）中高2名
 - ・数学科教員研修プログラム（河合塾）3名
 - ・英語科教員夏期教育研究セミナー（駿台予備校）1名
 - ・四国地区私学教育研修会（県内私立学校）14名
 - ・スポーツ事故防止セミナー（日本スポーツ振興センター）1名
 - ・未来に輝く子ども育成型学校連携事業公開授業研修会（高知県教育委員会）1名
- (3) 基礎学力の定着のために、中高とも5教科の参考書・問題集を持たせ、教科指導の体系化を進めるとともに、中学では、「授業展開における留意点4点」（①めあての明示 ②実物教材・半具体物の提示 ③小集団学習 ④授業の振り返り）を設定し、授業を行うとともに、放課後の補習や長期休業中の補習を実施した。また、中1・2は高知県学力定着状況調査に参加し、学力の実態把握に努めた。

高校では、特進クラスでの主要3教科（国語・数学・英語）の習熟度別授業を実施、放課後及び休業土曜日の補習、課外授業の充実に取り組んだ。本年度から補習授業に大手予備校講師による授業を一部取り入れた。

さらに、国公立大学の推薦入試対策として、外部講師による作文・小論文指導や面接指導の実施、特進クラスの生徒を選抜して県外大手予備校講座を受講させるなどの新しい試みも取り入れた。夏期休業中には、勉強合宿を土佐町さめうら荘で実施した。

また、学習習慣の定着のために、中学校の段階で毎日の家庭学習時間の目安を設定（中1は80分、中2は90分、中3は100分）のうえ、6・10・2月に家庭学習時間調査を実施し、定着状況の把握に努めた。自習学習の推奨策として、放課後にパソコン教室を開放してのICT教育に取り組んだ。

英語教育の取り組みの一環として、生徒に英検受験を推奨しており、中1では5級（中1修了程度）以上に約86%、中2では4級（中2修了程度）以上に約69%、中3では3級（中3終了程度）以上に約30%が合格した。この中には、準2級合格者が中2で2名、中3で7名含まれている。

- (4) 社会人としての生きる力を育てるため、中学校では、沖縄県への修学旅行を通じての平和学習、いじめ防止授業や講演会による命の大切さに気付かせる学習、各分野で活躍する職業人を招いての職業講演会などを実施した。

高校では、高知学園短期大学及び高知リハビリテーション学院とのフェローシップや高大連携授業の推進により、内部進学の上昇に努めた。進路実現のために進路講演会や大学講義・職業体験講座、大学訪問など年間を通じて実施した。

また、自尊感情を大切にすることやモチベーションを育てることを目標に取り組んでいる「朝の読書」については、中高ともしっかり根付き、落ち着いた学校生活が始まるようになり、学習意欲の向上にもつながっている。

- (5) 人権教育を本校教育の礎と位置づけ、オリエンテーションを利用した「クラスのルール・目標づくり」、「心の教育講演」などの講演会、また、自他の権利についての道徳の授業で指導するなど、心の成長を目指した。

また、教員対象の人権教育研修会、私学人権教育研修会への派遣や中高全クラスで研究授業を実施した。

支援を必要とする生徒には、教員が情報を共有するとともに、サポート室での学習やスクールカウンセラーを配置し対応した。

- (6) 部活動の実績については、10の運動部が全国大会に出場した。全国中学校総体では、剣道男子個人で県勢初の全国優勝を成し遂げた。

12月には県民文化ホールにて吹奏楽部の定期演奏会マーチングレビュー2016を「日豪交流フレンドシップコンサート」として開催した。オーストラリアのマリアットヴィル高校の生徒を迎え音楽交流を図るとともに、高知幼稚園、高知小学校の園児児童も出演し、高知学園として国際交流を深めることができた。

なお、部活動だけでなく学びも大切にすべく、部員を対象にした学習支援教室を昨年度に引き続き実施した。

◇全国大会出場の実績

	中学校	高校
体操部		全国高校総体 男子・女子（出場）
剣道部	全国中学校総体 男子個人（優勝） 男女団体出場	全国高校総体 男子・女子個人（出場） 全国高校選抜大会 男子・女子団体（出場）
弓道部		全国高校総体 女子個人（出場）
バレー ボール部		全日本高校選手権大会（出場）
ライフル 射撃部		全国高校選手権大会（AR男子個人出場） 岩手国体 男子AR（出場） 全国高校総体 男子団体・個人AR（出場）
空手道部	全国選抜大会 男子個人組手（出場）	全国高校総体 女子個人組手（出場）
水泳部		全国高校総体 男子個人（出場）
柔道部	全国中学校総体 男子・女子個人 （出場）	全国高校総体 男子・女子個人（出場） 全国高校選抜大会 男子・女子（出場）
サッカー部	全国中学校総体（ベスト8）	
少林寺 拳法部	全国中学生大会（出場）	全国高校総体 女子組演武 女子単独演武（出場） 全国高校選抜大会 男子・女子組演武 単独演武（出場）

(7) 施設設備の改善と充実

5月に温水プールの一部改修工事を行い、新しく外部スイミングスクールを導入することで、既存施設の有効活用に取り組んだ。

7月には高知市尾立地区に野球場仕様の旭グラウンドが完成した。本グラウンドの他に照明設備や補助グラウンド、ダッグアウト、内ブルペン、トイレ、得点板なども合わせて整備をし、記念セレモニー及び招待試合（龍谷大学附属平安高校）を実施した。また、2月にはグラウンド場内植樹計画の初年度として、桜の若木を51本植樹、記念セレモニーを実施した。

4月には幼稚園・小学校のバス駐車場が完成し、8月には正門からテニスコートまでの道幅拡幅工事を行った。学校所有車等の駐車場を新たに確保するとともに、児童生徒の通学の安全対策を講じた。

3 進路指導実績

[現役生・浪人生の合格者延べ人数]

	現役生	浪人生	合計	
国公立大学	6名	2名	8名	*国公立大学 和歌山大学1、高知大学3、高知県立大学3、高知工科大学1
私立大学	138名	24名	162名	
短期大学	21名	0名	21名	*私立大学 東洋大学、専修大学、亜細亜大学、日本大学、東京農業大学、立命館大学、京都外国語大学、京都産業大学、龍谷大学、近畿大学、関西大学、追手門学院大学、甲南大学、神戸学院大学、岡山理科大学、徳島文理大学、四国学院大学、松山大学、福岡大学
専門学校	40名	7名	47名	
各種学校	2名	2名	4名	
就職	8名	3名	11名	
総数	215名	38名	253名	

[現役生の進路（卒業生数156名）]

	人数	割合	備考
国公立大学	6名	3.9%	
私立大学	66名	42.3%	
短期大学	20名	12.8%	高知学園短期大学 19名
専門学校	37名	23.7%	高知リハビリテーション学院 12名
就職	8名	5.1%	
その他	19名	12.2%	各種学校6名、浪人11名、未定2名
卒業生数	156名		

4 人事計画の実績

本務教員は計画通りの71名（期限付講師5名を含む）、兼務教員は計画対比3名増の17名であった。本務職員は計画通りの5名、兼務職員は計画対比1名減の13名であった。

5 その他の事業実績

南海地震対策及び防災教育

生徒の防災意識を高めるために、通学路における危険箇所や地震、津波が発生したときの緊急避難場所などを確認させる防災通学路調査シートを、学校用と自宅用の2枚作成させ、生徒の防災意識の向上と緊急時の生徒の居場所の確認に利用できるようになった。また、7月に防災教育を実施した。

緊急時の食料と水の備蓄は全校生徒1日分を確保するとともに、防災シートも全校生徒分を確保した。

[3] 高知小学校

1 事業の概要

教育方針である「紳士・淑女（まごころをつらぬく子）の育成」にそって、日々の教育実践に努め、高知小学校が目指す子ども像（勉強にうちこむ子、仲良く助けあう子、ねばり強い子、ゆたかな心の子）を具現するために、指導目標、重点目標として次のことを掲げる。

(1) 「指導目標」

- ① 児童の安全確保を最優先とし、指導の2本柱である「確かな学力の定着」「しつけ指導の徹底」を推進する。
- ② 積極的な学習態度を養うとともに、一人ひとりの個性や可能性を尊重した指導を行う。進学指導の強化・充実を図る。
- ③ 教職員の資質・指導力向上を図り、児童の意欲を引き出す教育実践に努める。全教職員が全児童を把握した上で指導に当たる。
- ④ 幼・小・中高連携教育を推進する。

(2) 「重点目標」

- ① 子どもの夢と希望を叶え、保護者の期待に応える学校をめざす。確かな学力の定着としつけ指導の徹底を図るため、1時間1時間の授業を大切にし、その質の向上に努める。
- ② 教員の資質・指導力向上に向けた研修の充実を図る。教員個々が自己研修による指導力向上に取り組む。外部講師招聘による校内授業研究会を開催する。
- ③ 児童募集活動の見直しと強化を図り、募集定員確保に努める。
- ④ 登下校及び学校生活における児童の安全確保に努める。
- ⑤ 総合学園として小学校の位置づけのなかで、幼・小・中高連携教育を推進する。（幼稚園からの入学、中学校への進学に視点をあてた連携教育に取り組む。）また、小学校の特色である英語教育の見直しと充実を図る。

2 事業の実績

(1) 日々の授業の充実と学力の向上・定着を図る取組

- ① 本校創立以来継続している英語教育において、ネイティブ教員とのチームティーティング体制は、3年目を迎え授業内容が充実してきた。6年生の英語発表も、昨年度の発表を聞いた子どもたちは、創意工夫を重ねて意欲的な発表ができるようになってきた。6年間の学習の集大成としての意義が高まるとともに、聞く方も発表する方もともに学びあうことができた。
- ② 県版学力テストの実施及び結果分析により、算数・国語・理科における児童の学習状況を把握し、学力の定着と向上へ向けての取り組みを強化した。
- ③ 全学年で、10分間の計算テスト、漢字テストを行い、基礎学力の定着を図った。パーフェクト賞（100点）を設定していることが、取り組みの励みとなっている。
- ④ 5年生は学期末テスト、6年生は毎月実力テストを実施し、理解度・学力を確認するとともに、補習等を通して理解の定着を図った。実力テストは、中学校進学へ向けての大切な指標ともなり、目指す中学校入試へ向けての意欲づけになっている。
- ⑤ しつけ指導については、児童手帳「わたしたちのきまり」を基に週目標を設定して、全教職員で共通理解を図りながら指導した。

(2) 教員の資質・指導力向上に向けた研修の充実

- ① 全員が年間を通して1回の研究授業を行い指導力アップに繋がった。また、国語科を中心に、「聞く・話す」のコミュニケーション力の育成をテーマとした研究を深めてきた。講師招聘による低・中・高学年での全校授業研究会を開催した。
- ② 全教員が市教研（高知市教育研究会）の授業研究会に参加し、各教科別に研究会に参加した。また、土佐研（土佐教育研究会）にも積極的に参加した教員も見られた。特別支援教育については、高知リハビリテーション学院の先生を講師として支援会議をもった。具体的な支援方法を学び、実践に繋げることができた。総合学園としての連携教育として、今後も継続して取り組んでいきたい。
- ③ 西日本私立小学校研修会（奈良県）に参加し、国語科の部会で学んできたことを、日々の授業実践に繋げた。
- ④ 一昨年度から、本校の研究主題に迫る取り組みの一環としてNIE教育（新聞を活用した教育）に取り組んでおり、全国大会大分大会に参加して研修を深めた。研修内容を参考にしながら、各学年の実践に繋げた。

(3) 学習や生活面での充実を図るための支援体制の確立

- ① スクールカウンセラーは、週8時間（火曜日と木曜日に各4時間）体制での4年目を迎え、児童・保護者・教員が毎回相談をしており、悩みの解決や児童の学習・生活面での意欲向上に大きく寄与している。特に友人関係での相談が多く、相談内容についてカウンセラーと担任が話し合うことで、早い段階での課題解決に繋がっている。
- ② 特別に支援を要する児童については、個別支援シートに基づいて、定期的に支援会議を開催した。具体的な指導方法を話しあうとともに、支援員が学級に入って支援を行うことで、子どもの変容に繋がった。
- ③ 心身ともに健康な体をつくるためには、基本的な生活習慣が大切であることを全校集会や学級指導で訴えるとともに、日常の学校生活の中で人に迷惑をかけないことや嫌がることをしないこと、思いやりを持って友達に接すること等を繰り返し指導した。また、明るく元気に学校生活を送ること、ものごとの良さや美しいものに感動することについても機会あるごとに伝えた。
- ④ QU アンケート（楽しい学校生活を送るためのアンケート）を年間2回（1年生は1回）実施し、子どもたちの「やる気」や「学級内での居場所があるか」等を分析・検討して、よりよい学級集団づくりに繋がった。

職員会で、分析・検討結果と取り組みを話すなかで、子どもの変容に至る指導過程が明らかとなり、他の学級での指導に役立つ提案がされるようになった。また、日々の生活の中で、いやなことがないかを問う「きみのことおしえてシート」を学期毎に実施して、友だち関係での課題の早期発見・早期解決に努めた。書くことによる訴えを聞き、深刻に悩む前に解決していく手だてとしている。また、子どもの心のサインを見落とすことがないように、子どもへの声かけや家庭への連絡を密に行い、いじめやトラブル等の未然防止に努めた。

(4) 登下校及び学校生活における児童の安全確保

- ① 登下校時の安全確保の観点からスクールバスを利用する児童が多い為、4台運行体制を継続した。また、1・2年生を対象とした交通安全教室や全校児童対象の乗り物別指導を行い、登下校

中の安全指導を行った。

- ② 緊急時の対応として、全校で地震・津波を想定した避難訓練を行った。緊急時の備蓄食料として飲み水と乾パンを購入した。(毎年購入)
 - ③ 学期に1回、校舎内外に危険場所がないかを点検し、安全確保に努めた。
- (5) 総合学園の中の小学校としての幼・小・中高連携教育の推進
- ① 幼小連携教育では、各学年と園児が有意義な交流ができるよう年度始めには年間計画を見直し、年度末には反省会で成果と課題を出し合うことで次年度につなげている。1年生と年長児と一緒に英語を学んだり、お弁当を食べたりの活動を通して小学校生活への期待感を育てるような交流も取り入れている。
 - ② 小・中高連携教育では、毎月1回の定例会を開催し、児童・生徒が一同に会して交流できる機会を多く持つようにした。(中学校での部活見学、1年生の世界の鐘体験、4年生の月の観察、5年生の文化祭への参加、水泳・陸上・バスケット等での合同練習)。中・高校生の持つ技量の素晴らしさにふれることで、中・高で学ぶことへの意欲を育て、中学校への進学児童の増大に繋げていきたい。

3 募集活動

- (1) オープンスクール・後期学校説明会や新聞広告、園訪問や体験入学、またRKC主催のイベント「すこやか 2016」や学園全体としてのイベント「GAKUEN フェスタ」に参加するなどして募集活動に努めた。
- (2) 基礎学力の定着と向上に向けた学習指導、きめ細かな生活指導を継続することで、保護者の信頼を得て、高い学校評価に繋がるように努めた。
- (3) 子どもたちが生き生き活動している様子や本校の特色ある取り組みを広くアピールする為、ホームページと学校案内のリニューアルを行った。
 - ① ホームページでは、学校行事等日々の子どもの様子をリアルタイムで掲載でき、保護者からも好評を得ている。
 - ② 高知幼稚園からの入学者は、18名(前年度6名)と大幅に増加した。兄弟姉妹関係にもよるが、今後も幼小のより良い連携のあり方を探り、小学校の取り組みを広くアピールしていく必要がある。
 - ③ 29年度入学児童の選考においても、オープンスクール参加者、学校見学者の出願率が高かった。日常の学習や生活の様子を直接参観して、学習に取り組む意欲や姿勢、積極性などが、評価されたものと思われる。保護者の評価は教員の指導力や取組姿勢と密接な関係があるので、さらに教員の指導力・資質の向上に努めたい。
 - ④ オープンスクール参加者や学校訪問者の中で、出願の無い方については園訪問や電話での確認、また、後期の募集案内を持参する等の募集活動を行った。

[入学者状況]

	受考者	合格者	入学者	欠席・辞退
29年4月入学	63	62	61	欠席1・辞退1
28年4月入学	46	45	45	
27年4月入学	47	47	46	県外転出1

4 人事計画

(1) 全学年2クラスであり、合計12クラスであった。

① 本務教員は18名、兼務教員は8名であった。

本務教員（学級担任12名、音楽専科1名、英語専科1名、TT教員1名、養護教諭1名、
教頭1名、校長1名）

兼務教員（理科1名、書写2名、図工1名、習い事3名（英会話1名、ピアノ2名）
算数TT1名）

② 本務職員は1名、兼務職員は5名であった。

③ 英語、英会話（習い事）は、AZ-HOUSE（元 旭英会話教室）より派遣。

5 教育・研究実績

(1) 児童のために実施した諸計画

① 読み書き・計算の強化（全校漢字・計算テスト）

漢字・計算を年間13回実施した。

② 朝の読書、保護者による読み聞かせ

③ 美術館・商店・工場見学

高知県立美術館3～6年生が見学。香美市美術館見学。

2年生、木曜市見学。3年生公民館、消防署見学。

④ 防災学習、避難訓練

学園合同避難訓練を計画したが、雨天の為中止となり、小学校独自で開催。

⑤ 校内植物教室や舞台芸術の鑑賞、映画教室の開催

⑥ 高知幼稚園との交流学習

⑦ 学習発表会、6年生を送る会、合格おめでとう会

⑧ TTの継続（全学年で算数において実施）

⑨ 班毎にテーマを決めて、各学級を回って英語発表（6年生）

⑩ 「こども高新」投稿

昨年度からNIE教育に取り組んでいることから、高学年からの投稿回数も多くなっている。

(2) 児童が受賞したコンクールや作品展、大会

第67回子ども県展

総合優秀校

・毛筆優秀校 ・硬筆最優秀校

【推薦】毛筆2名 硬筆2名 条幅1名

【特選】毛筆9名 硬筆21名 図画3名

夏休み学習旅行招待作品展

【入賞】2名（沖縄への3泊4日の旅行招待）

【佳作】5名

第26回MOA美術館高知児童作品展

図画【MOA美術館奨励賞】1名 【高知市長賞】1名

【高知市議会議長賞】1名 【高知県教育長賞】1名

【高知市教育長賞】1名 【金賞】1名 【銀賞】3名 【銅賞】2名

書写【MOA美術館奨励賞】1名 【高知県議会議長賞】1名

【金賞】2名 【銅賞】2名

統計グラフコンクール (本校は約30年、高知県の指定校となっています。)

第1部(1~2年)【入選】2名 【努力賞】2名

第2部(3~4年)【知事賞】1名【教育長賞】1名 【入選】2名 【佳作】1名

【努力賞】1名

第3部(5~6年)【教育長賞】1名 【入選】2名

第34回動物愛護絵画展

【特選 高知市長賞】1名 【特選 高知市長賞】1名

【特選 県獣医師会会長賞】1名 【入選】11名

市民憲章「こんなまちにすみたい」図画コンクール

【特別賞 高知市町内会連合会会長賞】1名 【入選】2名

サンデー毎日学生書道コンクール

【推薦】4名 【特選】6名

高知市毛筆コンクール (3年生以上が出品)

【特選】3年…10名 4年…10名 5年…9名 6年…10名

【優秀・入選】多数

第60回青少年読書感想文コンクール

【高知県優秀】1名 【県入選】6名 【市入選】18名

高知県教育文化祭「小・中学生作文コンクール」

【読売賞】1名

歯・口の健康に関する図画・ポスター展

【入選】2名 【佳作】5名

こども小砂丘賞作文コンクール

【優秀】1名 【優良】11名

美術教育総合展

(自由平面の部)【特選】2名 【優秀】5名 【入選】21名

(毛筆の部)【特選】36名 【優秀】18名

J A 共済書道・ポスターコンクール

(条幅の部)【銀賞】1名 【銅賞】1名 【佳作】2名

(半紙の部)【佳作】1名

社会科自由研究作品展

【特別賞…ジョン万次郎賞】1名 【優秀賞】5名

高知市科学展覧会

【優秀賞】1名 【佳作】4名

高知「環境絵日記」コンクール

【優秀特別賞】2名 【入選】3名

ライオンズクラブ国際協会主催国際平和ポスターコンテスト

【最優秀賞】1名 四国キャビネット事務局に出品 【優秀賞】3名

高知市学童水泳記録会

【男子 200m リレー】 1 位 【男子 150m メドレーリレー】 5 位
【男子 50m 自由形】 1 位 【男子 50m 平泳ぎ】 9 位
【男子 50m 背泳ぎ】 9 位 【男子 50m バタフライ】 1 位
【男子 50m 自由形】 入賞 2 名 【女子 50m バタフライ】 入賞

高知市学童陸上記録会

【女子 400m リレー】 4 位 【女子 走り高跳び】 6 位
【男子 ボール投げ】 9 位
【男子 ピッタリリレー】 5 位 【女子 ピッタリリレー】 7 位（共に誤差 1 秒）

くろしおアリーナカップ小学生駅伝競走大会

【4・5 年生の代表 2 チームが参加】 12 位 34 位

鏡川ジュニア駅伝競走大会

【4・5 年生の代表 2 チームが参加】 12 位 27 位

図画や毛筆・硬筆は経験豊富な専科の教員が指導にあたります。また、開校以来、作文教育に力を入れ、日々の日記指導などにかかっています。

「ねばり強い子」「勉強にうちこむ子」「豊かな心の子」「仲良く助け合う子」は、本校が開校以来掲げている『めざす子ども像』です。様々な場面で、自己を見つめ精進していこうとすることで、本校教育のめざす基本的な特色があります。

(3) その他の事業実績

進学状況

高知 11 名、土佐 9 名、土佐塾 13 名、学芸 5 名、土佐女子 5 名、明德 2 名、清和 1 名、附属 1 名、公立 6 名、県外私立 1 名 (卒業生 54 名)

5 施設設備の改善と充実

- (1) 来客用下駄箱を新設した。
- (2) 来客用スリッパ入れを新規購入した。

[4] 高知学園短期大学附属高知幼稚園

1 事業の概要

基本方針である「幼児自ら気づき、考え、行動することのできる生きる力の基礎を養う」を目的とし、重点目標を定め取り組んだ。

(1) 重点目標

- ① 五感を通した豊かな体験をし、心身ともに健康でたくましい子どもに育てる。
- ② 教職員は実践的な研修・資質向上に努め、子どもに「生きる力」の基礎を養う。
- ③ 地域や家庭、学園内組織(小・中・高・短大・高知リハビリテーション学院)との連携を更に深める。
- ④ 入園児確保のためにより効果的な募集活動をする。

上記の重点目標は、概ね達成され、継続を必要とすることについては日々努力している。

2 事業の実績

(1) 募集実績

	学 年	在園児数実績 (5月1日現在)	
		28年度	29年度
満2歳児	たんぽぽ	18	4
満3歳児		0	2
3歳児	もも	27	40
4歳児	ゆり	34	26
5歳児	ばら	39	37
合 計		118	109

- ① 園開放「あそびにおいでよ」(毎週水曜日)の充実を図った。
 - ・1年間の「あそびにおいでよ」の予定表の作成をした。
 - ・親子で製作したものを持って帰った。
 - ・未就園児に「えかきちょう」を1冊渡し、シールを貼ったりなぐり書きしたものを1年の終わりに本人に渡した。また、記録として1冊のつづりを園に残した。
 - ・未就園児だけの運動会(10月15日(土))を開催した。(12組)
 - ・2学期末までの来園者数…47名。そのうち28年度たんぽぽ組入園児9名。29年度年少入園児9名。
- ② 年4回体験入園説明会を実施した。
【平成28年9月24日(土)、11月16日(水)、平成29年1月14日(土)、1月25日(水)】
- ③ ホームページに加えて、各学年の保育の様子を毎週末にブログに載せ、園での取り組みを紹介した。
- ④ 募集チラシを折り込み広告として年2回配布した。また、園児の家庭から知人に声掛けをしていただくようお願いした。

- ⑤ 夏季・冬季・春季休業中の預かり保育（月単位・1日預かり）を実施した。
夏季…1432名、冬季…349名、春季…539名（すべてのべ人数）
- ⑥ 短期大学との連携を継続した。（歯磨き指導・健康教育・クリスマスケーキ作り・夏季休業中のボランティア・リズム・学園祭・等）リズムは毎週おこなった。
- ⑦ 学園内連携の強みを対外的にアピールした。（Gakuen Festa 2016）
- ⑧ 子育て応援団 すこやか 2016 に参加し、園児の発表や園紹介をした。
ブースでは、子ども達の喜ぶ動物ヨーヨーを配布し、その間、対象となる親に「園開放のチラシ」・「体験入園説明会のチラシやパンフレット」を説明しながら配布していった。その結果、8月には、園開放時2～3名程度の来園者があり、入園につながった。
- ⑨ RKC 子育て応援団に協賛し、キャンペーン CM を流す。（TV、ラジオ）現在も継続中。

3 人事計画

4月当初から7クラス編成（満3歳児）となる。園長を含め本務教員5名、兼務教員8名（時間講師3名を含む）兼務職員3名、計16名で担当した。

4 教育・研究実績

(1) 教職員の資質向上

- 文献（幼稚園教育要領の五領域（健康・人間関係・環境・言葉・表現））を研究し、教育内容を検討して保育の質を高めた。
- 研究保育、研究協議を行い、園内事例研修の場を持った。
 - ・各職員が園内研修（園内の職員で保育を参観しあい、その後協議をする）を7回実施した。
※協議内容は園の研究テーマに基づき、公開者がどのような視点で話をしたいかを決定し、付箋を使って職員それぞれが意見を出し、園全体として保育を高めていくものである。
 - ・各クラスが事例研修協議を行った。（7回）
 - ・本年度の研究テーマについて、年度末に1年のまとめとしてレポートを作成した。
- 研究会・研修会への参加
 - ・私立幼稚園連合会夏季研修会、幼児教育研究協議会に参加し、保育の質を高めた。
 - ・新採研修、ミドル研修、ミドルフォローアップ研修等に参加し、資質向上に努めた。

(2) 学園内組織との連携

- 高知学園短期大学幼児保育学科や生活科学学科、医療衛生学科、高知リハビリテーション学院言語療法学科、中学高等学校との連携を密にすると共に、高知小学校とのきめ細かな連携を深め幼児教育の連携を推進した。
 - ① 幼児保育学科との連携
 - ・毎週金曜日リズムの指導（年少～年長）
 - ・教育実習（H28.6.6～7.1）実施
 - ・観察実習（H29.2.20～2.25）実施
 - ・夏季休業中のボランティア（1年生全員）
 - ② 生活科学学科との連携
 - ・クリスマスケーキ作り（H28.12.21）実施…24家庭参加

- ③ 医療衛生学科との連携（歯科衛生専攻）
 - ・学生による歯磨き指導（年長児を対象）を実施（H28.5.24）
- ④ 各学科との健康教育（全園児対象）の実施（H28.5.21）
- ⑤ 高知リハビリテーション学院との連携
 - ・園児（年中・年長児）が訪問し、学生と交流実施（言語療法学科）（H28.10.17、10.24）
 - ・全園児の体力測定を行った（理学療法学科）（H27.9.12）
- ⑥ 中学・高等学校との連携
 - ・中学校運動会に参加予定だったが雨天で中止。（H28.9.18）
 - ・中学校家庭科の授業で中学2年生が4回来園。
- ⑦ 短大学園祭に参加予定だったが雨天で参加取りやめ。（H28.10.22）
 - ・年長児のみ、幼児保育学科の「こどものくに」に遊びに行った。
- ⑧ 幼小連携を強化し、活性化を図った。
 - ・1～6年生の各学年と交流
 - ・7月23日（土）「すこやか2016」でのステージ発表
 - ・10月2日（日）小学校運動会への参加
 - ・11月18日（金）小学校創立60周年記念学習発表会への参加（年中・年長児）
 - ・12月15日（木）5年生による誕生会での発表
 - ・年度末に交流のまとめの冊子作成をした。

(3) 異年齢保育の取り組み

- グループでの遊び等を通して人間関係を持ち、思いやりの心を育てるように取り組んだ。
 - ・学園内の散歩、栽培活動、焼き芋パーティー等

5 その他

- 交通安全、避難訓練（地震、火災、水害）、防犯訓練等を継続的に行い、安全確保に努めた。
 - ・交通安全教室（H28.10.31）・防犯訓練（H28.9.7）実施
 - ・避難訓練の実施（毎月）
 - ・東日本大震災から6年が経過し、生命の大切さを改めて知らせた。
- 地域とのかかわり
 - ・運動会、バザー・作品展、表現発表会等のポスターを渡し、見に来てもらった。
- 施設設備の改善と充実
 - ・手洗い場蛇口を改修。
 - ・防犯カメラ設置（正面玄関・たんぼぼ組玄関）。
 - ・園舎廊下の蛍光灯をLED化と3箇所増設。
 - ・園庭改修工事。
 - ・たんぼぼ組保育室にシャワー室設置と押入の改修。

[5] 高知リハビリテーション学院

1 重点目標と取り組み

国の社会保障政策や医科学の進展に対応していくことができる理学療法士・作業療法士・言語聴覚士を教育・養成していくため、重点目標を定め、取り組んできている。

全国に先駆けてリハビリ専門職に関する技能教育を我が国に導入してきた先進・進取の気風を承継し、発展させていくため、平成 30 年の開学 50 年を踏まえ、教育環境の整備に力を注いでいる。蔵書 3 万冊、最新の検索システムを備えた新図書館棟の整備を皮切りに、平成 29 年度までの間に、時代の要請に応えていくとこのできる人材を育てていくための最先端の教育システムの導入・整備に努めている。急性期医療に対応できる高度な医療技能や知識を習熟していくことができる人工モデルを用いたトレーニングシステムを平成 27 年度に、高齢者や障害者の在宅での生活サポートプログラムの学習や社会参加を支援する最新設備や工学システムを 28 年度に導入、そして発達障害や認知症などにおける脳の機能評価や解析の学習と人工知能を用いた回復訓練技能システムを 29 年度に導入する計画である。

[主要な項目と平成 28 年度の取り組み]

(1) 先進・進取の教育の推進

国の社会保障政策を見据えた授業科目の設定、医科学の進展に合わせた実習や演習の展開を図るとともに、教員の教授力の向上、資質を磨く研究活動の推進に努めた。

教育環境の面では、上述の高齢者や障害者の生活活動能力の向上や社会参加を促進するために行うリハビリに関する技術評価や訓練指導等に必要な最新の支援機能を備えた模擬生活空間を整備するなど、一層の充実化を図った。

(2) 目的意識を持つ学生の確保

県内外の学校訪問や出前講座の開催、また、県内高校進路指導教員を対象にした学校説明会には 29 校 (31 名) の出席を得た。オープンキャンパスは、年間 5 回開催するとともに、高校をはじめ各地での進学相談会といった取り組みを積極的に推進し、この中で、高齢化の進展と地域包括ケアといった社会の趨勢を踏まえリハビリテーションの重要性、療法士の役割などの説明を行うことで職業観の醸成とその浸透に努めた。力を注いでいるオープンキャンパスでは体験授業や学校ガイダンスに時間をあててきたが、平成 28 年度は、504 名の来校者を数えたものの、平成 29 年度の入学者は、109 名であった。

(3) 有為な人材の育成

専門技能の習得に欠かせない教育機器の導入を促進するとともに個人学習プログラムに基づく学生教育を進めるなど、一人ひとりと向き合った指導育成に努めた。

高知高校とのフェロシップ (10 名) による一貫した人づくりを推進し、基礎的医療知識の修得と職業観を持った学生リーダーの育成を図った。

国家試験については、平成 27 年度を上回る 111 名 (新卒) の合格者であり、前年度を上回る成績であったが、全員合格を目指し、徹底した対策を講じていく必要があるため、基礎専門教科の習熟度の評価をはじめ 1 年次から全学科あげての対応を進めている。

2 教育研究に関する取り組み

(1) 学生のスキルアップ

補講や休暇を活用した授業などにより、基礎学力の向上を図るとともに、専門知識、技能の習得に必要な基礎教科の重点指導に努め、スタディースキル（学習技能）をアップさせていく取り組みを進めた。

また、療法士に不可欠なコミュニケーション能力の向上、社会人としての礼節、至誠心といったソーシャルスキル（対人的技能）をアップさせていくため、専門家を招へいた教育指導や実践研修を推進した。

(2) 教員の研鑽、研究活動の促進

教員の資質の向上を図っていくため、教授法などに関する専門研修や教育研究大会などへの派遣といった取り組みとともに、教員と臨床現場との意見交換会を開催するなど、最前線の情報収集と技術力の向上などに努めた。

また、学会などを通じ、研究活動の成果の発信に努めた。

（論文掲載 28 件、学会発表 35 件、著書 1 件）

全国の臨床実習受入施設の責任者を招へいし、専門的知見や技術、情報等を交換する指導者協議会には 212 名（193 施設）が参加、リハビリテーション現場で直面する課題などに対する討議と分科会での検討も行った。

3 学生募集に関する取り組み

(1) 専願による学生の確保

専願での学生の確保を図るため、学校訪問や進路相談会、出前講座の開催といった取り組みを重点的に推進した。高知高校とのフェローシップによる学生（入学 5 名）を含め、平成 29 年 4 月の入学生に占める専願での入学生は 91 名であった。

入試では、このほかに一般推薦、社会人選考などを行い、109 名の学生の入学となった。

理学療法学科と言語療法学科で定員を下回ったことから、高校の進路現場への訪問を中心に入試方法の再考も含め、徹底した募集活動を展開していくことにしている。

（高知高校とのフェローシップに参加している 2 年生（平成 29 年度の 3 年生）は 15 名となっている。）

(2) 学校訪問や進路相談会などの開催状況

学校訪問専門の職員を配置し、県内高校については、原則、毎月 1 回、四国 3 県についてはオープンキャンパスや入試前に重点的に訪問し、進路担当教職員との面談、情報提供などに努めた。

進路相談会については、県内はもとより中四国各地でも開催しており、高校主催のものも合わせると 57 回（597 名受付）行った。平成 28 年度は 30 名の県外高校（7 県）からの学生が在籍した。

（平成 29 年 4 月入学は県外 12 名。）県内高校の進路指導教員を本学院に招へいして行った説明会には 29 校（31 名）からの参加を得た。

オープンキャンパスには 504 名が来校。平成 23 年度から年 5 回開催してきており、その内容も医療知識の修得と職業観の醸成につながる体験型のものを中心に行っている。

4 就職に関する取り組み

教職員一丸となり新規開拓、情報収集等を行うため施設訪問を重ねるとともに、10 月には本学院で就職合同説明会を主催、県内外の 73 施設の人事担当者と学生が直接面談する場を設けるなど、引き続いての全員就職に向け取り組んだ。

総求人件数は2,268件、その求人数は7,429名に上り、就職希望者123名のうち、年度内には117名（県内に66名、県外に51名）の就職が内定した。

5 教職員の状況

人事計画では本務教員30名、兼務教員86名、本務職員12名、兼務職員10名としていたが、兼務教員は83名となった。本務職員と兼務職員数に変更はなかった。

参考

表 1：入試選考

区 分	定 員	平成 29 年 4 月入学者		平成 28 年 4 月入学者	
		志願者	入学者	志願者	入学者
理学療法学科	70	48	44	82	68
作業療法学科	40	43	41	67	48
言語療法学科	40	26	24	29	29
合 計	150	117	109	178	145

学生数（4月）：平成 26 年度 581 名：平成 27 年度 601 名：平成 28 年度 589 名
：平成 29 年度 554 名

表 2：国家試験

区 分	平成 28 年度			平成 27 年度	
	受験者	合格者	合格率	合格者	合格率
理学療法学科	63	59	94% (90%)	52	75% (74%)
作業療法学科	35	31	89% (83%)	35	88% (88%)
言語療法学科	30	21	70% (75%)	14	45% (68%)

・合格率の（ ）は全国

表 3：就職状況

(平成 29 年 3 月末現在)

区 分	卒業生	平成 28 年度			平成 27 年度		
		総数	就職希望者		総数	就職希望者	
			県内	県外		県内	県外
理学療法学科	63	62	29	30	63	33	30
作業療法学科	35	34	24	9	37	27	10
言語療法学科	32	27	13	12	23	13	9
合 計	130	123	66	51	123	73	49

・求人件数と求人数：2,268 件、7,429 名（平成 27 年度：2,429 件、7,848 名）